

みどりが丘だより



当院マスコットキャラクター
ゆきとら うさひめ

信州上田医療センター
独立行政法人国立病院機構 Shinshu Ueda Medical Center

広報誌 2025.4 No122



Index 手術支援ロボット daVinci 導入
がん市民公開講座
地域がん診療連携拠点病院に
指定されました
診療科訪問（乳腺内分泌外科）
クリスマスサプライズ
診療連携協定のおはなし
薬剤師の一口メモ
栄養管理室だより
信州上田地域連携だより

手術支援ロボット da Vinci(ダビンチ)導入

da Vinci® Xi™
SURGICAL SYSTEM

当院では、2024年12月より内視鏡手術支援ロボット「da Vinci (ダビンチ) Xi」を導入しました。最新の医療技術を導入するにあたり、安全かつ確実に提供できることを目的として『ロボット支援手術センター』を設置、関係職種のスタッフがチームを組み一丸となってロボット支援手術を実施します。

執刀する医師は、ダビンチの製造元である Intuitive Surgical 社の定めるトレーニングを修了し、認定資格を取得しています。今後は消化器外科領域を始めとして、他科領域におけるロボット支援手術の導入を支援し、ロボット支援手術による安全かつ良質な医療を地域の皆様に提供いたします。詳細は当院ホームページをご覧ください。





ロボット支援手術センター長
泌尿器科部長 小川 輝之



副ロボット支援手術センター長
外科部長 村中 太

昨年12月よりda Vinci Xiによるロボット支援前立腺全摘除術を開始しました。

手術の達成の目標である摘出標本の断端陰性、輸血が不要の2点については現段階で達成できています。術後尿失禁については経過をしばらく見ていく必要がありますが、この短期間では概ね良好な結果となっています。

入院期間は術後8日で退院としています。2例合併症があり入院期間の延長を余儀なくされましたのが無事回復し退院されています。

今後は前立腺以外にも腎臓がん、膀胱がんの手術を行っていく予定です。



当院に昨年12月から手術支援ロボットda Vinciが導入されました。

すでに泌尿器科の前立腺がんに対して手術が行われています。われわれ消化器外科でも2月から大腸がんに対してロボット手術を開始しました。

もともと消化器外科ではかなりの手術を腹腔鏡というおなかもにカメラを入れ、テレビ画面を見ながら行う方法を取り入れていました。ロボット手術でも同様にカメラを見ながら手術を行います。

おなかもつく創（きず）は腹腔鏡でもロボットでも従来の開腹（おなかも開けて行う）手術にくらべて格段に小さくなっています。術後の痛みの改善や出血が少ないなど体に負担の少ない優しい手術となっています。

ロボット手術ではさらに腹腔鏡よりもより精緻な手術ができ、ひいてはがんの治療の質の向上に役立てられると考えています。

この技術により上田小県医療圏でみなさまの健康に貢献できることを期待しています。



『第8回上田地域がん市民公開講座』を開催しました！

経営企画室長 富永 泰平

令和6年12月7日（土）、毎年恒例の“上田地域がん市民公開講座”を上田市文化センターから“サントミューゼ（上田市交流文化芸術センター）”に会場を移し開催しました。

当院は11月に上小医療圏では初めて内視鏡手術支援ロボット“ダビンチXi”を導入しました。そのアナウンスの意味も込め『身近になったロボット手術』と題して内視鏡手術支援ロボットによる泌尿器科手術にクローズアップした内容です。

講師は信州大学附属病院等でロボット手術の経験を積み、今年度からロボット手術支援センター長として当院に赴任した小川輝之泌尿器科部長と、自らも前立腺癌に罹患し、ロボット手術を受けて回復された経験を持つ演出家の宮本亞門氏のお二人です。

最初の講演『泌尿器科領域のロボット手術』では、小川部長が泌尿器科のロボット手術の実際や治療効果についてデータと動画を交えてわかりやすく講演しました。アンケートでも「小川先生の説明はわかりやすかった」という声が非常に多く、好評を博しました。

宮本亞門氏からは、『亞門のがん日記～ガンサバイバーになって考えたこと』と題して、ご自身のがん診断から治療、そして現在に至る経緯を、記者会見のエピソードや人生観とともにお話いただきました。講演の終盤にはジョニー・デップの「人生はリハーサルだと思っている人がいるようだけど、残念ながら、人生は一度しかない 本番なんだ」という名言が引用され、その言葉が一層説得力をもつて響きました。

当日は曇り空の肌寒い気候で、かつ初めての会場ということもあり不安でしたが、前回を大きく上回る255名の方にご来場いただきました。

次回、第9回上田地域がん市民公開講座は令和7年8月17日（日）サントミューゼで開催予定です。皆さまのご参加を心よりお待ちしております。



明解な話しぶりでロボット手術を説明する小川部長



藤森院長（当時）からのご挨拶



当日は肌寒い気候でしたが…

ゆきとらもお手伝いにかけつけた！



地域がん診療連携拠点病院への推薦を受けて ～当院が上小地区の名実とともに がん診療の拠点となります～



がん診療連携部長 小松 哲

2人に1人が“がん”になる

国民の半分以上が“がん”になると言われ驚いたものですが、その後も“がん”になる方は増えており、すでに男性は3人に2人が“がん”になる時代になってきています。風邪をひいたことはなくても、救急車に乗ったことはなくても、“がん”を発症して病院を受診する可能性が高い時代になってきました。“がん”は特別な病気ではなく誰もが発症する可能性があるのです。

最近はインターネットの普及やAI人工知能の進歩で日常生活が便利になっていますが、“がん”診療はまだ昔ながらのスタイル（病院へ来てもらい採血や検査をしたり、入院して手術を受けたり点滴治療をしたりする）のため、“がん”診療ができる病院が近くにあることはとても大切です。

“がん”診療は日進月歩

それでは近くにどんな病院でもあればいいかというと話は別です。なぜなら“がん”診療（診断・薬物治療・手術方法など）は、すさまじい勢いで新しい技術が開発されているからです。この最新医療の質を維持するためには、医師だけでなく看護師や事務職員も新しい知識を学び続ける必要があり、また高額な医療機器もどんどん用意しなければならず、病院・スタッフともに負担は大きいのですが、我々は地域の皆様へ“がん”診療を届けるべく日々奮闘してきました。

地域がん連携診療拠点病院

そしてこの春、当院はより高度ながん診療を提供する“地域がん診療連携拠点病院”へ格上げされ、国より指定がなされました。上田市及び上小地域は残念ながら医療体制の整備が遅れ、“がん”診療も他地域の医療機関に長時間かけて通う必要がありました。まずは当院へ受診していただければ適切な“がん”診療が受けられる体制が整ったことになります。

病院も公共インフラの一つ。地域の皆様に使っていただき、支えていただき、育ててもらう。これができない病院は消滅していく時代です。引き続き地域の皆様方のご支援をよろしくお願いいたします。

診療科訪問

第1回

乳腺内分泌外科

2016年4月に乳腺内分泌外科を開設して4月で10年目になります。10年前の当院の状況では、患者さんはいても何もできない状態でした。まさに砂漠に水を引くことから始め・種をまき・緑を増やす毎日でしたが、有能なスタッフ達を探しだし乳腺チームを作ることができ、この9年間で乳がん手術症例は800例を超えて総手術件数も900例を超えるました。幾人かの“弟子”達も育ち今年から市内で開業しています。

このような実績から、4月からは信州大学より定期的に若手医師が勤務するようになります。しばらくの間、前任の藤森院長とほか常勤医師の退職に伴い一人体制でしたので、外来の待ち時間などで大変ご迷惑をおかけしましたが、従来よりも充実した医療を提供できる体制が整います。

乳房検診などで再検査になった方はいつでもお越しください（事前での予約をお勧めしております）。また、紹介状などがない初診の方も初診時特定療養費と呼ばれる国を取り決めがあるため別途支払い金額が増えますが、当科ではできるだけ当日に対応をしますので、「どこへ行ったらよいかわからないから様子見ちゃおう」なんてことは無いようにしましょう。

診療内容

◇ 乳がん診療は、すべての治療を当院で行っています。乳房再建も得意としており、形成外科とも協力して人工乳房再建だけでなく自家組織による再建も行っています。

◇ 甲状腺疾患は、内分泌内科とも協力して治療を行っていますが、手術だけでは治らない悪性度の高い未分化がんや低分化がんは信州大学とも協力して治療にあたっています。



乳腺内分泌外科部長



乳腺内分泌外科医師

こまつあきら
小松哲
(平成10年卒)

きよさわなみ
清沢奈美
(平成31年卒)

一言メッセージ

地域の方が、最高かつ最新レベルの診療を受けられますように心がけています。皆様方のご理解とご協力を引き続き宜しくお願ひ申し上げます。

＼＼クリスマスサプライズ／＼

（ゆきとらの病棟訪問について）

事務部管理課 庶務班長 石井 陽一

令和6年12月25日クリスマスの日に、当院キャラクター「ゆきとら」が西5病棟へお伺いいたしました。突然のサプライズでしたので、小児の患者さんやご家族にも大変喜んでいただきました。患者さんと一緒に写真を撮られたりして、有意義な時間を過ごしていただきました。

「ゆきとら」という名前は昨年度の病院祭にて、地域の皆様より募集し投票にて決まりました。地域の皆様と病院との懸け橋となるべく生まれた「ゆきとら」は、医療の現場でも皆様に喜ばれる存在になっていることを改めて実感いたしました。また、病棟の医師・看護師さんからも「かわいい」とのお声がけいただいており、一緒に写真を撮るなど、大変かわいがられておりました。「ゆきとら」は、患者さんだけでなく当院の職員を結びつけてもらっているのだなとも感じ、私たち職員も素敵なクリスマスの一日を過ごすことができました。





診療連携協定とは

経営企画室長 富永 泰平

皆さんは救急医療の仕組みをご存じですか？

急病やケガで病院に救急搬送された経験をお持ちの方もいらっしゃるかもしれません。その時に搬送された先の病院が「救急指定病院」です。「救急指定病院」には、医師や医療機器などの救急医療に対応できる体制が準備されています。急病やケガに昼も夜もありませんから、「救急指定病院」は24時間体制で救急搬送患者さんを受け入れなくてはなりません。とはいって実際のところ、ひと

つの医療機関で24時間365日救急医療を提供していくのは、マンパワー的に困難な場合が多いのです。

そうした場合、複数の「救急指定病院」が救急医療を行う「当番日」を決めて、各「救急指定病院」が「当番日」だけ地域の救急医療を担う「輪番制」がとられています。上田市を含む上小医療圏に坂城町を加えた上田地域広域連合の「二次救急医療（主に入院が必要な救急患者を対象とした医療）」は、10の「輪番病院」と、「輪番病院」が対応できない場合に24時間365日体制でバックアップを行う「後方病院」により支えられています。信州上田医療センターはこの「後方病院」です。

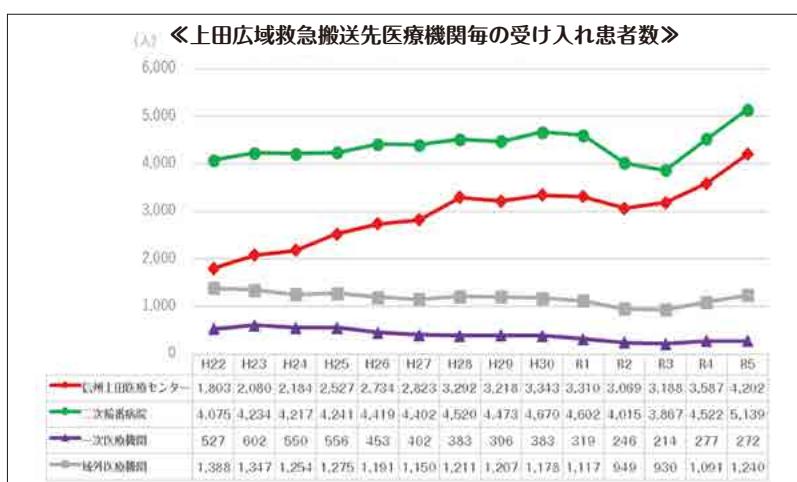
このように整備されている2次救急医療体制ですが、近年の少子高齢化の影響により厳しい状況にあります。下図は上田広域救急消防が出動した救急搬送患者さんの受け入れ状況の推移です。赤い線が「後方病院」

の信州上田医療センターに搬送された患者数、緑の線が「2次輪番病院」に搬送された患者数（10医療機関の合計）です。新型コロナウイルス感染症による受診控えの期間を挟み、急激に増加していることがお分かりいただけます。

医療の“需要”と“供給”的ミスマッチが忍び寄る

救急搬送患者数が増加する理由は、高齢者人口が増加したためとされています。人口全体としては減少局面にありますが、右の入院患者推計を見ると、医療を必要とする機会が多い高齢者の人口は増加し、結果として2035年まで上昇傾向にあり、同様に救急搬送患者数も当面増加していくことが予想されます。

その一方で、救急医療を担う医師の高齢化と、少子化による医師や看護師などの医療従事者の“成り手”的減少により、救急医療の提供体制は年を追うごとに縮小傾向にあります。医療の“需要”と“供給”的ミスマッチが上小医療圏の救急医療にも影を落としています。



～救急医療体制を維持するための取り組み～

医療の需要と供給のミスマッチは、2次救急医療の「後方病院」である当院への救急搬送患者数の増加として表れています。当院は「後方病院」として、24時間365日救急医療を提供しています。先のグラフのとおり、上田広域における全救急搬送患者に占める当院搬送患者の割合は上昇傾向にあり、近年はおよそ4割前後で推移しています。ところが、当院においても医師や看護師などの医療従事者の確保は困難な状況で、許可病床（法律によって運用が認められた病床数）420床に対して、現在は339床しか運用できません。

そのため、満床（空きベッドがない状態）のため救急搬送の受け入れを停止せざるを得ない時間が年間で1,000時間前後発生しており、地域の救急医療の要請に十分に応えることができていないのが実情です。

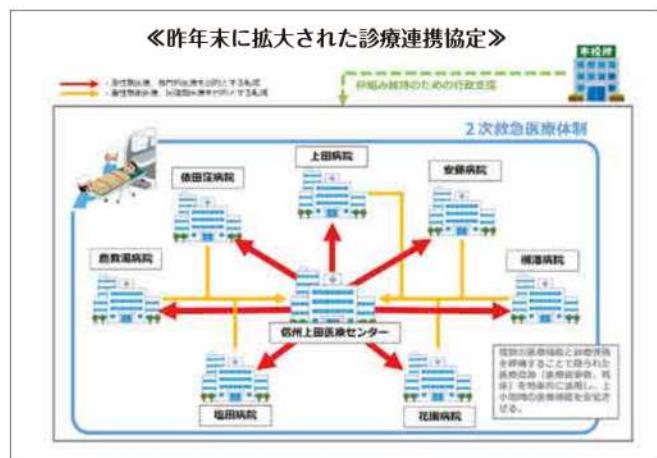
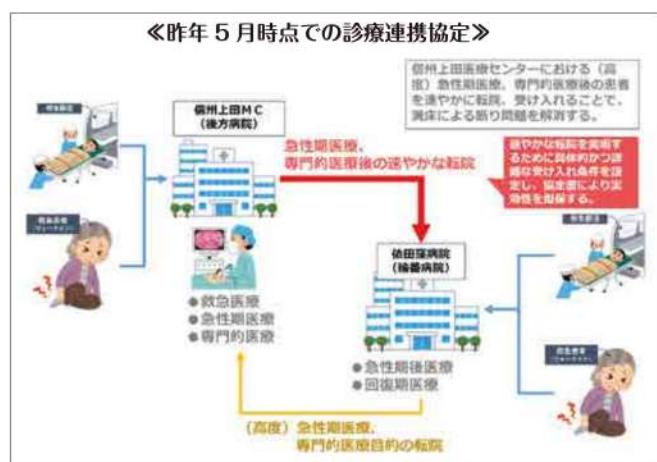
上田地域広域連合における二次救急医療を維持するための協定

当院では「救急搬送受け入れ停止時間の解消」を最優先課題として取り組んで参りました。その取り組みの一環として、令和6年5月15日に国民健康保険依田窪病院との「後方連携」診療協定を締結しました。診療協定の内容は、当院で急性期医療、専門的医療を終えた入院患者さんの転院調整を迅速に行い、また、転院した患者さんの具合が悪くなった際には速やかに逆方向（依田窪病院⇒当院）の転院を行う、というもので、

この連携により、入院患者さんはより早期に充実したリハビリテーションを受けることができ、結果としてより早く回復することができます。また、当院の空き病床が生まれやすくなるため、「救急搬送受け入れ停止時間」が短くなることが期待されました。

連携協定締結から半年以上経過し、「救急搬送受け入れ停止時間」は確実に短縮されつつあります。この効果をさらに大きくし、将来にわたって上田地域広域連合における二次救急医療を維持する目的で、連携を複数の医療機関へと拡大し、12月末までに依田窪病院の他に上田病院、上田花園病院、柳澤病院、安藤病院、塩田病院、鹿教湯病院と連携を締結、当院を含めて8医療機関の連携に拡大しました。

今年の1月30日には8医療機関が集まって今後の連携方針を検討する「協定医療機関会議」が開催され、忌憚のないご意見をいただきました。今後も少子高齢化により医療機能の維持が困難になることが予想される中、地域の皆さんによりよい医療を提供し続けるためには、このような各医療機関の思惑を超えて地域の医療を考え、調整し、整備する動きが必要です。



薬剤師の一口メモ

薬剤師 渡辺 淳太

医療機関で「ジェネリック医薬品（後発医薬品）を希望しますか？」と聞かれたことはありますか？

今回は「ジェネリック医薬品」についてQ&Aでまとめました。



Q. ジェネリック医薬品ってなに？

A. ジェネリック医薬品は、先発医薬品（新薬）と同じ有効成分を使っており、品質、効き目、安全性が新薬と変わらないお薬です。

ジェネリック医薬品の最大のメリットは価格が安いことです。開発にかかる期間が新薬より短いため、新薬に比べて安く提供することができます。

Q. 効き目や安全性は？

A. ジェネリック医薬品は販売される際に、新薬と同レベルの有効性、安全性、品質を有するかどうか厳格な審査が行われているため、安全にご使用いただけます。

またジェネリック医薬品に使用される添加剤は、必ずしも新薬と同じとは限りませんが、添加剤に関しても安全性が確認されています。中には、新薬と添加物、製造方法等まで同じオーソライズド・ジェネリック(AG)というものもあります。後発医薬品選択の際は検討してみるのもいいかもしれません。

Q. 使用したい場合は？

A. 医療機関で医師や薬剤師にそのことを伝えてください。ただし治療している病気によっては、ジェネリック医薬品が使えない場合があります。

当院でも、ジェネリック医薬品の採用について積極的に取り組んでいます。

栄養管理室 高田 涼太

新生活が始まり、環境が大きく変わるものも多いのではないでしょうか。慣れない環境での生活は疲れやすく、特に忙しい朝は朝食を食べない人もいるかもしれません。しかし、朝食を欠食することは身体へ悪い影響を及ぼしかねません。

【朝食欠食のデメリット】

食事が次の食事の血糖値に与える現象のことを「セカンドミール効果」と呼びます。科学者の中澤らは、健康な若年成人を対象にした実験で、朝食の摂食群と欠食群を比較し、摂食群は昼食後の血糖値の上昇幅が低いことを報告しました。つまり、朝食（ファーストミール）を食べることで、次の食事後（セカンドミール：昼食）に高血糖になることを抑えることができます。朝食の欠食は、昼食後に高血糖状態が遷延しやすいため、生活習慣病に罹患するリスクが高まるので注意しましょう。



【朝食を摂るための工夫】

時間が無い時でもすぐに食べられるオートミールやバナナ、ヨーグルトなどはお奨めです。また、前日のうちに翌朝食の準備をして冷蔵庫に作り置きすることで、時短にも繋がります。おにぎりやサンドイッチなど通勤・通学中に食べられるものも便利です。高いセカンドミール効果を得るために、食物繊維が多く含まれる食品を摂取すると良いでしょう。朝食であれば食物繊維は全粒穀物（オートミール、雑穀米、ライムギパン等）や野菜、果物などを摂取するのはいかがでしょうか。

【朝食から新生活のスタートダッシュ！！】

これまで朝食を摂る習慣がなかった方は、「朝食を食べる」朝活を始めてみませんか？健康的な食生活習慣を築き、充実した新生活を始めましょう。

【参考文献】

Hayashi S, et al. Effect of breakfast on lunch time postprandial blood glucose. Glycative Stress Research 2017; 4 (2): 124-131



信州上田地域連携だより

地域医療連携係長 吉田 久美子

先ずは、令和7年2月19日開催の地域医療連携大会へご参集戴きました医療機関の先生方、看護職の皆様方に地域医療連携室一同より感謝を申し上げます。日頃から、当院の医療連携に協力を戴いておりますが、冬季は特に地域全体が感染症の影響により円滑な連携が滞る状況があります。現在、多くの皆様のご協力を得て、救急患者の方々を受け入れる体制として下り搬送スキームを構築しているところです。入退院調整につきましては、病院・医院（クリニック）・療養福祉施設・訪問サービス関係・薬局・行政・ボランティアの方々等より、今まで以上に様々な支援と応援の声を頂いております。

地域医療連携室は、医師・看護師・医療ソーシャルワーカー・事務員の構成員30名が一丸となり、入退院を円滑にするほか、医療・福祉サービスを提供しています。一人ひとりに向き合い、皆様に信頼される医療相談支援に取り組んでおります。医療福祉制度の活用や複合的な社会的課題を有する方への支援を行い、より良い患者サービスを目指しています。また、がん相談支援センターは、がん疾患に特化した相談支援を行う部門です。各種相談については情報管理の徹底を遵守しております。どうぞお気軽にご相談ください。

上田圏域（上小地域）の医療を守るため、地域医療連携としての役割を果たしていきたいと思っております。地域住民の皆様、どうぞよろしくお願ひいたします。



♪ 新任医師のご紹介



小児科 中澤 ちひろ先生

1月から赴任しました、中澤ちひろと申します。お子様やご家族の笑顔を守れるようになりたいと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。

地域医療連携大会の開催について

地域医療連携室長 松村 英祥

令和7年2月19日(水)に信州上田医療センターの主催による「令和6年度地域医療連携医大会」が東急REIホテルで開催されました。

今回は東信地域の38医療機関から医師を中心に106名、当医療センターからも63名、総勢169名の参加者が集まり盛況のうちに幕を閉じました。

今年は、1月より当院の新病院長となった横山隆秀先生より本年の当院の医療の現状と医療施設間の連携スキームの強化などについて、開会の挨拶としてお話をさせていただいた後、信州上田医療センターの診療部全体の紹介、泌尿器科部長より泌尿器科のロボット手術を含めた実際の診療紹介が行われました。

意見交換会では、橋本至永上田市医師会長と当院相談役の森寛夫先生から挨拶があり、乾杯の発声で和やかな雰囲気に包まれました。参加者は2時間という短い時間の中で、活発な交流を深めました。

東信地域は県内でも医師や医療提供体制が限られており、効率的な地域医療の提供には、各医療機関の実情を踏まえた連携システムの構築が急務です。医療におけるAIの役割が拡大する一方で、患者さんを診るうえでは、顔が見える医療連携が不可欠です。今後も医療機関同士の相互理解を深め、より良い連携体制を築いていきたいと思います。



信州上田医療センター

令和8年度採用

看護職員採用試験日

募集職種：看護師・助産師

採用試験：令和7年5月10日(土) 領書受付：4月25日(金)まで

応募資格：助産師又は看護師の資格を有する方

令和8年3月末までに助産師又は看護師の資格取得見込みの方

看護職採用試験のご案内・応募要綱・領書一式→



看護部紹介パンフレット→



病院職員を募集しています。

職員採用情報→



お問い合わせ

信州上田医療センター 管理課給与係長

Tel : 0268-22-1890 (内線4251) Mail : aiba.yoshiki.cy@mail.hosp.go.jp

外来診療担当表

令和7年4月1日

診療科	曜日	月	火	水	木	金
内科	総合診療科(内科新患外来)	交代(内科系医師)	松本 隆一	滋野 俊(第5水曜日休診)	交代(内科系医師)	交代(内科系医師)
	内 科	宮本 有夏	知見 萌子(午前) 川田 伊織(午後)	(信大医)	知見 萌子	川田 伊織
	糖尿病・内分泌代謝内科	江澤 直樹(全日) 上條 祐衣(午後)	古谷 力也(全日)	江澤 直樹(午前) 澤田 美乃里(午後)	古谷 力也(午前) 澤田 美乃里(午前)	上條 祐衣(午前)
	脳神経内科(予約制)	町田 良亮	出浦 弦(第1・3・5週午前) 丸野 崇志	吾妻 俊彦 丸野 崇志	町田 良亮	吾妻 俊彦
	呼吸器内科	橋上 遣太	牧 直哉	藤森 一也	佐藤 貴一	安藤 皓一郎
	消化器内科	藤森 尚之		(担当医)	藤森 尚之	(担当医)
	肝臓内科	古川 鉄兵	高橋 寧史	高橋 寧史	林 悟子	
	腎臓内科	阿部 直之 森田 岳宏	高橋 済 寺島 雄大	阿部 直之 羽田 健紀	高橋 済 寺島 雄大	森田 岳宏 羽田 健紀
	循環器内科	清水 文彰(午後)			清水 文彰	
	緩和ケア内科(予約制)	藤森 充帆 齊間 貴大 中澤 ちひろ	石田 岳史 齊間 貴大 青木 優	藤森 充帆 青木 優 中澤 ちひろ	石田 岳史 齊間 貴大(第1、3、5) 中澤 ちひろ(第1、3、5) 藤森 充帆(第2、4) 青木 優(第2、4)	石田 岳史 藤森 充帆(第1、3、5) 青木 優(第1、3、5) 齊間 貴大(第2、4) 中澤 ちひろ(第2、4)
小児科	発達外来(予約制)	永春 幸子				
	外科・消化器外科	村中 太	横山 隆秀 清水 文彰 増尾 仁志 中澤 賢史(午後)	黒岩 雄大	村中 太 黒岩 雄大(午前) 瀬原田 魁 中澤 賢史(午後)	増尾 仁志
	呼吸器外科	斎藤 学	(手術日)	交代制(院内紹介のみ)	(手術日)	瀬志本 真帆
	乳腺内分泌外科	小松 哲 清沢 奈美	(手術日)	小松 哲 清沢 奈美	(手術日)	小松 哲 清沢 奈美
	整形外科	赤羽 努 樽田 大輝	吉村 康夫 善賊 未結	赤羽 努 関 駿一 (信大医)	樽田 大輝 善賊 未結	吉村 康夫 関 駿一
	形成外科	大槻 仁志 相阪 哲也	大槻 仁志	大槻 仁志 相阪 哲也	(手術日)	相阪 哲也 大槻 仁志
	脳神経外科	東山 史子 大屋 房一	木内 貴史 大屋 房一		東山 史子	木内 貴史 大屋 房一
	心臓血管外科			佐久医療センター医 (予約のみ)	岡田 良晴(午後) (受付15:00まで)	
	皮膚科	小川 英作(完全予約)			三宅 知美(完全予約)	
	泌尿器科	水沢 弘哉 木村 恵太 小川 輝之(午後)	小川 輝之 三村 裕次	(手術日)	小川 輝之 木村 恵太	水沢 弘哉 三村 裕次
専門外来	産科(午前)	島袋 麻希子	松村 英祥	松村 英祥	宮下 大輔	長谷川 崇
	(午後)	(手術日)	(手術日)	1か月健診	松村 英祥	(手術日)
	婦人科(午前)	松村 英祥	長谷川 崇	宮下 大輔	島袋 麻希子	塙田 彩加
	(午後)	(手術日)	(手術日)	(検査日)	(検査日)	
	眼科	(信大医)		(第1・3水曜日 手術日)	(信大医)	(信大医)
	耳鼻咽喉科	鈴木 宏明 松浦 一輝	(手術日)	松浦 一輝 鈴木 宏明	松浦 一輝(午前) 堀 由希子(午前) (手術日)(午後)	鈴木 宏明 松浦 一輝
	放射線科(予約制)	小沢 岳澄	小沢 岳澄	小沢 岳澄	小沢 岳澄(再診のみ)	小沢 岳澄
	歯科口腔外科(予約制)	梅原 亜矢子 清水 黎	上原 忍 梅原 亜矢子 (信大医)栗田 浩	上原 忍 清水 黎	(手術日)	上原 忍 梅原 亜矢子
	スキンケア外来		9:00~17:00予約制			9:00~17:00予約制
	糖尿病透析予防ケア外来	9:00~15:00予約制 (第1・4週)	9:00~15:00予約制 (第2週火曜日)	9:00~15:00予約制 (第1・3週)	9:00~15:00予約制 (第2・3週木曜日)	9:00~15:00予約制 (第1週金曜日)
	睡眠時無呼吸外来		14:00~17:00予約制 (第1・4週火曜日)			
	禁煙外来					予約制

・皮膚科を受診される方へ 初診又は当院での治療終了後、新たに受診される方は必ず紹介状をご持参の上お越しください。

・診療受付時間 8時30分から11時まで ※予約については、午後も対応しております。

・休診日: 土曜日、日曜日、祝日、年末年始(12月29日~1月3日)

・次回発行までに変更がある場合があります。ホームページでご確認をお願いいたします。

次の場合には紹介状をご持参下さい。

①当院を初めて受診する場合

②前回受診より3ヶ月あいだが開いた場合(予約は除く)

③医科受診中に歯科口腔外科を受診する場合

○紹介状が無い場合は医療費とは別に選定療養費をご負担いただきます。

★第5水曜日の総合診療科は休診となります。
ご理解、ご協力の程よろしくお願ひいたします。

いきいき健康フェア 2025

6月28日(土)
イオンスタイル上田で開催

がん市民公開講座 2025

8月17日(日)
サントミューゼ小ホールで開催

病院祭2025 開催

10月4日(土)
信州上田医療センターで開催

編集後記

看護部

外来看護師長 辰野 方英

蛇も蛙も冬眠から目覚め、寒さも和らぎ春の息吹を感じる季節となりました。

蛇といえば、今年の干支は蛇ですね。上田市には松尾宇蛇神社（白蛇神社）があり、私もつい先日参拝してきました。大昔、上田城には白蛇が住み着き、戦乱から城を守り城下を平穏に静めていました。その白蛇を祀ったのが松尾宇蛇神社です。境内からは上田市を一望でき、とても清々しい気持ちになりました。

新年度も近づき、思いを新たにがんばろうと強い決意が芽生えました。今後も上田医療センターと「みどりが丘だより」をよろしくお願ひいたします。



独立行政法人国立病院機構
信州上田医療センター

〒386-8610
長野県上田市緑が丘1-27-21
TEL0268-22-1890(代表)
FAX①0268-24-6603(代表)
FAX②0268-22-1893(地域医療連携室)
<https://shinshuueda.hosp.go.jp>

発行 令和7年4月
発行人 院長 横山 隆秀

YouTube
公式チャンネル



X (旧Twitter)
公式ツイッター



Instagram
公式インスタグラム

